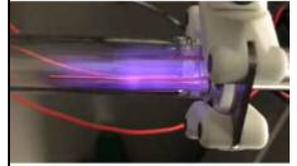


## 山大メモリアルニキシー管時計を作ろう

1月は実験が主な活動となりました。今年度最後の実験です。前回の実験では、アルゴンガスのみを実験用ニキシー管に封入し、発光を観察する事ができました。今回はアルゴンガスの他にヘリウムガスも封入して、実験を行いました。ニキシー管は電極の周辺のガスが発光するのですが、複数の種類のガスを封入するとガスが他のガスの発光を助け、より高い圧力、つまり管内部の空気の量が以前より多くても発光を得る事ができます。圧力が上昇すると、より簡単に必要な圧力を用意することができる、発光の輪郭がはっきりする、などのメリットがあります。ニキシー管は数字や文字を表示するものですから、輪郭がはっきりする事はとても重要です。今回の実験では、ガスの発光に必要な圧力を前回の10倍に引き上げる事ができました。ニキシー管としての機能を満足に果たすためには、今回の2~3倍(前回の20~30倍)の気圧でも発光するようにする必要があります。その為には最適なガスの種類・割合・量を発見する必要があります、これが今後の課題です。



発光する  
実験用ニキシー管  
内部

## 体験で学ぶ防災・減災



防災についての  
交流会

1月16日に災害時の情報共有などを目的とする防災コミュニティ設立に向けた電話ミーティングに参加しました。西は山口県、東は京都府までの防災団体が問題点や目的の明確化などの確認・意見出しを行いました。短い時間でしたが、ほかの防災系の団体と交流できたのは貴重な機会になりました。1月17日は兵庫県南部地震発生日で、防災とボランティアの日でもありました。私たちは、この日に学内で防災についての交流会を開催しました。夏に行った防災・減災についての研修で学んだことを発表したり、防災減災について説明したりしました。また、クイズも何問か用意して楽しく学ぶ機会になったと思います。防災に詳しくないが宣伝ポップを見てきてくれた人がいて、そのような人にも防災・減災に興味を持ってもらえたので良かったです。しかし、準備期間が少なく宣伝不足だったのでこの点は今後の改善点にしていきたいです。私たちが約1年を通して活動して得た知識や考えを少しでも外部に発信することができたので、いい交流会になったと思います。

## Share KASA

今月からは新たに人文学部棟と農学部棟の2か所でShare KASAがスタートし、計6か所でのShare KASAの利用が可能となりました。すでに1か月行っている取り組みであったため、交渉・設置ともスムーズにいきました。今月は1月上旬は冬休みであり、雨があまり降らなかったことからあまり利用者は多くなかったです。また、今月からは傘にナンバリングをして傘の移動の推移を追うという試みをしましたが、なかなかうまくいきませんでした。傘のシェアリングに関してはもっと効率的な方法をこれからも模索していく必要があると考えています。次に、今月の10日に同じおもプロ採用企画である「もりフォメ」からShare KASAについてインタビューを受けました。もりフォメで取り上げられることにより、Share KASAが多くの人に知ってもらえるいい機会になったと思います。また、このインタビューを通して、Share KASAの意義の再確認やこれからの展望についてメンバー以外の人とディスカッションでき、よかったです。



「もりフォメ」の  
インタビューを  
うける

## YUシェアハウス経由 山大スクールバス

今月は実際にFace bookの告知を開始し、運営も開始してみる月でした。アンケート結果からもGIVE AND TAKEのようなシステム(不要物品の移譲)を欲しいと思っている学生は多いことがわかり、また宣伝を開始してから予想以上の人が登録してくれたことは驚きでした。しかし実際に使ってみる人は現段階ではないという状況です。そのためこちらから自由に使っていていいんだよ、という雰囲気やGIVE AND TAKE内に作り出すためにメンバー内でいろいろ投稿してみようという流れを作り出そうとしました。また実施期間としてもテスト期間と被ってしまったことあるので、最初は1月内だけの実施としていましたが宣伝方法を増やしたり、より利用してもらえるにはということを考えながら2月ももう少し実施してみようと考えています。アンケートに関してはいろいろ分析を開始しまとめに入っていこうと考えています。



GIVE AND TAKE  
システムの開始

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは  
自主活動ルームにて受け付けています